

## ■ 農作物の生育状況と今後の対策等（9月）

令和6年9月12日  
三八地域県民局地域農林水産部  
農業普及振興室

### I 水稲

#### (1) 成熟期における稈長、穂長、穂数

「まっしぐら」の生育は、稈長、穂長は平年より長く、 $m^2$ 当たり穂数は平年より少なかった。

「はれわたり」の生育は、稈長、穂長は前年より長く、 $m^2$ 当たり穂数は前年より少なかった。

表1 水稲生育観測ほの生育データ  
まっしぐら(生育観測ほ)

市町村	地点	年次	田植 (月日)	出穂期 (月日)	成熟期				備考
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	$m^2$ 本数 (本)	
八戸市	市川	本年	5月15日	7月30日	89.7	18.6	25.6	380	平年値はH18～ R5年の平均値
		平年	5月15日	8月7日	76.5	17.5	20.3	410	
		前年	5月13日	7月30日	81.0	17.9	23.0	454	
五戸町	根前	本年	5月21日	7月27日	76.0	19.8	13.6	291	平年値はH17～ R5年の平均値
		平年	5月15日	8月3日	77.2	17.8	17.4	395	
		前年	5月21日	7月30日	80.2	19.6	15.3	350	
三八管内 ※8地点平均		本年	5月19日	7月28日	82.8	19.2	18.1	357	
		平年	5月18日	8月4日	77.4	17.6	18.4	388	
		前年	5月19日	7月29日	80.3	18.4	19.4	397	

※八戸市(市川、櫛引、島守)、五戸町(根前、中市)、階上町道仏、南部町苦米地、新郷村長峰

はれわたり(指導拠点ほ)

市町村	地点	年次	田植 (月日)	出穂期	成熟期			
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	$m^2$ 本数 (本)
八戸市	南郷	本年	5月25日	7月30日	88.0	17.6	19.3	372
		前年	5月14日	7月29日	90.3	19.4	24.3	451
三戸町	貝守	本年	5月13日	7月25日	78.7	16.8	25.0	435
		前年	5月14日	7月27日	71.9	16.1	21.2	399
南部町	苦米地	本年	5月16日	7月29日	96.0	19.7	22.0	405
		前年	5月17日	7月30日	88.6	16.9	22.5	423
田子町	原	本年	5月15日	7月25日	87.3	18.5	20.3	390
三八管内 ※4地点平均		本年	5月17日	7月27日	87.5	18.2	21.7	400
		前年	5月15日	7月27日	80.8	16.3	23.6	442

(2) 刈取適期

刈取始めの目安である出穂後の積算気温 960℃に達する時期は、管内の出穂最盛期（7月28日）に出穂したほ場で、9月5日頃となっている。管内の刈取作業は9月4日頃から開始している。

表2 出穂日別積算気温到達日（八戸アメダスデータを使用）

積算気温	出穂期						
	7/24	7/26	7/28	7/30	8/ 1	8/ 3	8/ 5
960℃到達日 (まっしぐら刈取始期)	9/ 1	9/ 3	9/ 5	9/ 8	9/10	9/12	9/15
970℃到達日 (はれわたり刈取始期)	9/ 2	9/ 4	9/ 6	9/ 8	9/10	9/13	9/15
1,200℃到達日	9/12	9/14	9/17	9/20	9/22	9/25	9/28

※9月9日までは今年値、9月10日以降は平年値を使用

(3) 登熟状況

9月2日現在の県生育観測ほの登熟状況は、八戸市市川の「まっしぐら」が71.6%で平年より35.9ポイント高く、五戸町根前の「まっしぐら」が89.3%で平年より35.7ポイント高かった。

また、田子町原の「はれわたり」は74.8%であった。

表3 登熟調査結果

登熟調査結果(県生育観測ほ)

市町村	地点	品種	年次	出穂期 (月日)	1穂籾数 (粒)	m <sup>2</sup> 籾数 (百粒)	登熟歩合 (%)	備考
八戸市	市川	まっしぐら	本年	7月30日	96.3	365.9	71.6	平年値はH18～ R5年の平均値
			平年	8月7日	80.8	329.7	35.7	
			前年	7月30日	80.0	363.4	69.3	
五戸町	根前	まっしぐら	本年	7月27日	87.9	256.2	89.3	平年値はH17～ R5年の平均値
			平年	8月3日	87.9	345.6	53.6	
			前年	7月30日	93.7	327.9	64.9	
田子町	原	はれわたり	本年	7月25日	84.6	329.9	74.8	平年値なし

(4) 令和6年産水稻の8月15日現在における作柄概況について

東北農政局が8月30日に発表した青森県の概況は、県全体で「良」であった。

(5) 今後の対策等

刈り遅れにより、白未熟粒や胴割粒等の発生による品質低下が懸念されるため、籾の黄化程度等を見極めて、適期に刈り終えるようにする。

## II 野菜

### (1) ながいも

#### ア 生育の状況

いも長は 86.7cm (平年比 105%)、いも重は 1,040g (平年比 101%)、いも径は 55.1mm (平年比 94%) とほぼ平年並となっており、生育の遅れは回復している。病害虫は葉渋病とナガイモコガの食害が見られるものの、少発生である。

表 4 ながいもの生育観測ほの生育状況 (9月10日現在)

年 度	植付期 (月日)	つるの ネット頂 到達日	7月10日現在 (本年調査日:7月10日)			8月10日現在 (本年調査日:8月9日)			9月10日現在 (本年調査日:9月10日)		
			いも長	いも重	いも径	いも長	いも重	いも径	いも長	いも重	いも径
			(cm)	(g)	(mm)	(cm)	(g)	(mm)	(cm)	(g)	(mm)
本 年 (平年比)	5/20 遅15日	7/12 遅6日	11.2 62%	3.0 34%	6.9 83%	45.0 90%	171.3 74%	35.2 93%	86.7 105%	1,040 101%	55.1 94%
平 年	5/5	7/6	17.9	8.7	8.3	50.1	230.8	38.0	82.2	1,032	58.8
前 年	5/2	7/7	16.7	7.3	7.6	52.3	232.3	36.4	88.3	927	52.7

※庄司系2年子・120～150g ガンク切除

#### イ 今後の対策等

- (ア) 葉渋病、炭疽病が見られる生産ほ場では、まん延防止のため防除を徹底する。
- (イ) 種子ほ場では、アブラムシ類の防除を徹底する。
- (ウ) 台風等で支柱が倒れたり、ネットごと茎葉がずり落ちたりした場合は可能な限り修復する。穴落ちが見られる場合も速やかに埋め戻す。

### (2) にんにく

#### ア 植付け準備等

- (ア) 10月10日までに植付けできるよう、ほ場準備等は計画的に進める。
- (イ) 使用する種子は、イモグサレセンチュウやチューリップサビダニ等の害虫が寄生していないものとする。
- (ウ) 種こぼしは、チューリップサビダニ等の寄生を防ぐため、可能な限り植付けの直前に行い、種子消毒を実施する。
- (エ) イモグサレセンチュウの発生を確認したほ場では、土壌消毒等の体系的な防除対策を実施する。
- (オ) 種子増殖「専用ほ場」を設置し、優良種子を購入して、計画的に増殖する。
- (カ) 種子ほ場では、アブラムシ類によるウイルス感染を防ぐため、萌芽揃いから降雪前に、アブラムシ類に登録のある薬剤を散布する。

### (3) トマト

#### ア 生育の状況

生育観測ほでは、12段目の開花が8月29日で、平年より約2週間早かった。現在8～9段目を収穫中である。

8月第3半旬～9月第2半旬までの高温と、8月第3～4半旬、第6半旬の日照不足により12段目までの各段で落花が見られる。

病害は、灰色かび病とすすかび病の発生が見られる。虫害は、タバコガ類による果実及び茎葉被害が見られる。

一般ほ場でも高温・降雨の影響で、落花や裂果が多く見られ、出荷量が少ない状況となっている。

病害は、灰色かび病、すすかび病の発生が見られる。

虫害は、タバコガ類の他、一部でアザミウマ類による被害が見られる。

表5 トマトの生育観測ほの生育状況（9月10日現在）

年度	定植時				着果状況								収穫期	
	品種名		定植期 (月日)	育苗・活着 状況	1段花房		5段花房		9段花房		11段花房		始め (月日)	終わり (月日)
	穂木	台木			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)		
本年 (平年比)	りんか409	自根	5/5 (8日早)	良好	5/21 (6日早)	4.6 119%	6/27 (7日早)	3.5 136%	7/27 (16日早)	2.4 122%	8/20 (16日早)	1.2 79%	7/2 (8日早)	
平年	りんか409	自根	5/13		5/27	3.9	7/4	2.6	8/12	2.0	9/5	1.5	7/10	10/29
前年	りんか409	自根	5/10	良好	5/17	4.3	7/1	2.5	8/9	0.5	9/1	1.6	7/1	10/20
備考	※栽植様式：畦幅200cm、株間40cm、条間60cm、2条千鳥、黒マルチ栽培 ※栽植株数：1,960株/10a（80坪ハウスに516株） ※平年（H26～R5の10か年の平均値）													

#### イ 今後の対策等

(ア) 裂果の発生を防ぐため、天候に合わせたかん水管理と最低気温の低下に合わせて夜間はハウスを閉めるようにする。

(イ) 収穫終了予定日に合わせ、9月中旬頃までに摘芯を行う。

(ウ) 病害虫の発生に留意し、適期防除に努める。

### Ⅲ 農作業事故防止

1人で作業する時は、事前に家族等に所在を知らせておき、農業機械の操作を行う際は、周囲の安全確認や、ヘルメット着用などの事故予防対策に留意する。また、思わぬトラブルが発生した場合には、まずエンジンを停止させる。

### Ⅳ 農作業中の熱中症対策の更なる徹底

熱中症リスクの高い時期であることから、引き続き①こまめに水分をとる、②こまめに休憩をとる、③暑い時には無理をしないなど注意する。

## **V 農薬適正使用**

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農薬は、周辺作物や住宅地等に飛散しないよう適正に使用し、使用後は、栽培日誌、GAP チェックリストに忘れずに記帳し、出荷前の確認を徹底する。